

1 学校評価（自己評価）の分析と考察

（1）各学部取組について

教師については、どの学部においてもそれぞれの課題や目標に取り組んできたという意識がある。取組の効果についても、「あまりできなかった」という部分もありながら、全般的には児童生徒それぞれの実態に応じてある程度目標を達成できたとする自己評価である。

保護者においては、児童生徒に関心を持ち、客観的に評価していただいていると感じる。各学部の取組自体については高く評価していただいております。また、取組効果についてもA,B評価をいただいている割合が比較的高い。これは、日頃から連絡帳や電話などで児童生徒の細かな様子を伝え、情報を共有できている成果だと考えられる。逆にC～Eの評価が目立つ項目については、各学部の「成果と今後の課題」にもあるように、密な情報共有の不足や参観などの機会の不足が原因として考えられる。教師が日々感じている児童生徒の変化や成長を、保護者にも同じように共有してもらえるように、今後さらに積極的な情報発信に努めたい。

（2）各分掌部の取組について

昨年度の課題を踏まえ、今年度はどの部も継続・改善と情報発信に努めてきた。

支援部の取組については、連携会議や保育所訪問も増やし、支援が必要な家庭には丁寧に関わり一人で抱え込まないように家庭・福祉・学校の連携を継続的に推進した。ただ、教師と保護者の評価に温度差があるため、保護者に「外部機関との連携」についてさらなる周知に努め、効果的な支援の充実を図っていく必要があると思われる。

教務部は、改編した教育課程を実践する中、各学部で課題の整理や取組内容や方法の協議を行った。新しい教育課程に合わせた内容やグループ編成での進捗状況を継続的に検証する必要がある。

総務部は、学校ホームページで学校の特色や様子を発信している。また、行事や授業の様子が伝わるように写真なども掲載したブログも昨年度よりも多く掲載した。保護者からは学校ホームページについては「見にくい」という意見があがっているので、今後も具体的な意見の吸い上げと改善を重ねていく必要がある。

生徒指導部、進路指導部については、小学部から高等部での具体的な取組内容や度合いが違ってくるため、ある程度評価が割れてしまうのは自然な結果と考えられる。今後もそれぞれの学年のニーズに合わせ、積極的に情報を発信していく工夫が求められている。

保健部は「こやのさとスタイル」（ダイジェスト版・マニュアル）を慎重に審議し感染状況に応じて見直し、学校ホームページやお便りなどで全教職員や保護者と情報共有した。来年度以降も類型が2類から5類に移行したことで、学校医や学校歯科医・学校薬剤師先生のご意見を参考にして必要に応じて見直しを重ねることになる。

自立活動部、研究部の取組は、特別支援学校の根幹を担う。教師の資質を高め、一人一人の児童生徒の実態に合致した効果的な教育活動へと繋げているが、保護者にも概ね高い評価をいただいていることは大変ありがたい。ただし、少数であっても「納得がいかない」「満足していない」保護者がおられることは事実であり、それは全教師で共有し、学校として取り組み続けていかなければならない重要な課題である。

（3）保護者アンケート自由記述について

- ・毎日意欲的に登校できていて、学校が楽しい証だと思います。

・教師同士の連携や雰囲気がとても良く、子どもが安心して学校生活を過ごすことができていると感じています。

・一生懸命、教育して頂き有難く思っています。

・入学してから言葉も増え、表情も豊かになってきました。

等温かい言葉をたくさんいただいた。ご意見等は学校評価の内容に絞り次にまとめた。

①学校ホームページについて

・ホームページがもう少し見やすくなると嬉しいです。

②各種通信やお知らせについて

・こういったアンケートや写真購入、保護者活動などでネットを上手く活用されていてとても楽でありがたいです。送迎バスの状況がGPSなどですぐに分かるとさらにスムーズになると考えています。

③進路指導について

・支援学校の子どもたちの進路は行政福祉との関わりは必須なので、子どもの進路のことを考える上で、これからも各市町との連携を深めてもらいたい。あと、保護者が子どもの発達の様子を見て、進路先を検討できるフローチャートみたいな指標とできるようなシートなどを作成してみてはどうかと考えます。

・一つご検討頂きたい項目があります。実習等の最後に行う反省会という言葉、振り返り会とか学び交流会とか、そういう表現にしていただけると嬉しいです。反省会=きちんとやらなかった事を反省する会のように捉えてしまっていたので……ご検討頂けたらと思います。

④教育活動について

・簡単でいいので宿題が少しでもあればいいかと思えます。

・挨拶が多くのお子さんにとって大事なことは理解してるつもりですが、最重度の知的障害がある場合に力をいれていただいているほどには卒業後にむすびつかないように思え、身辺自立面での具体的な目標をあげ、翌年以降、短期的に長期的にどうつなげていこうとしているかというビジョンがもてるようにとりくんで欲しいと感じます。質問にある訓練行事とは何をさすのでしょうか？

・猪名川高校との交流や施設利用に積極的な行動を要望致します。

・学校で利用したパソコンやタブレットの内容など、本人の授業内容に限ってでかまわないので、ダウンロードできたり、閲覧可能にして共有できるとわかりやすいです。

・1人1台タブレットの支給が今も国からはないのでしょうか？特性をタブレットで活かせる生徒もいると思いますし、同級生の小学生は皆持っているので支給してもらえたらと思っています。

⑤その他

・バスの時間を見直してもらいたい。

・宝塚市の生徒が多い割に宝塚市の事業所や進路情報が余りない。

・学校での取り組む姿をデイの先生に直接見てもらえたら、こんな事も出来ているんだなど分かってもらいやすいのではと思います。また学校の先生にもデイの施設内や遊び方など見学してもらいたいと思います。

・他の県立高校に比べて時間割が短かったり、長期休暇期間や休校（休業）が多いのは改善してほしい。

・学校生活を途切れず続けることが大切だと思うので、夏休みの短縮を希望します。

いただいたご意見については全教師で共有し、改善を図るべき点は学校として意思統一を図り取り組む必要がある。

2 学校関係者評価

第2回学校評議員会（令和6年3月1日開催）において学校評議員の方からいただいた助言等は次の通り。

（1）課題点

①保護者はホームページをパソコン上で見るよりスマートフォン等で見る方が多いので手元のもので開いた時に、縦横のバナーやコンテンツが小さい画面では見にくい。

進路の道筋を示すフローチャートが欲しいとの声は、保護者は学校を卒業した先が根本は不安なのだと思う。就労や働くことだけが子供たちの進路ではない。もっと先のことまで見据えて、保護者同士が安心感を共有できる機会の設定を望む。

②学校というのは、まわりの目や社会的な目でいつも見られているという存在であることを理解したうえで適切な指導、態度に心がけないといけないと思う。

③保護者アンケートの回収率について、対象のわかるクローズドな調査の回収率として40%から60%はさらに改善が必要である。高くなっているということで評価できるので、アンケートに答えない分析をし、次年度のさらなるアップを期待する。

（2）助言

①進路を決めるというのは非常に大事な課題なので、保護者の意見に答える説明会や資料提供が必要である。

②保護者アンケートの自由記述に所属や学年を記入できるようにすると、情報を学部内でも共有できる。学部や分掌ごとではなく横の繋がりを持てるように整理をしたり、またそれを改善したりするとよりよくなる。

③「反省会」でなく「ふりかえり」の方がよい。

④挨拶指導が重度の知的障害児の場合、キャリア教育に結び付けるよりは、むしろ身近自立面での具体的な目標をあげて短期、長期的につなげるとよい。

⑤小学部段階での教育目標は「自分から思いを伝える」や、「表現する」である。「友だちと遊べる」等、大人との関係で信頼できるようになる等の目標設定が大事である。

⑥評価なので、「何がどこまで達成されたのか」、「課題として何があり来年度へ繋ぐか」を具体的にわかりやすく表現することができればよりよい。

⑦自由記述は関心があるからこそ書いていただいたので、大切な意見として今後につなげて欲しい。

（3）感想

①令和7年10月から実施の「就労選択支援事業」について一緒に研究しながら本人主体の進路選択を助ける関係者の支援力アップに取り組んでいければと考えている。

②自己評価もある程度達成できた、保護者の評価も高い結果が出ていることは、日頃の丁寧な教育活動や保護者との情報共有の成果だと思う。

③分教室の交流については、時間や時程が違うのは取組が物理的に難しいと思うので今後、時程を合わせ交流できることに期待している。

④卒業後の進路が未定の生徒と地域福祉を結びつけられた点は評価できる。

⑤生徒指導部の安全への配慮や防災に向けた訓練などの取組は評価できる。

3 令和6年度に向けて

学校評価（自己評価）結果及び学校評議員助言を学校全体で共有し、学校としての改善点を共通理解する。各学部学年及び分掌間でより効率よく効果的に改善に取り組めるよう令和6年度へ引き継ぐ。

令和6年度に向けた取組ポイントは次の通り。

(1) 伝え方・伝わり方を意識した情報発信

連絡帳やお便りなどを介して、日ごろより児童生徒の活動や成長の様子を保護者と共有できるよう、きめ細かな情報を発信する。学校ホームページ（ブログ）の内容についても、児童生徒の活動がわかるように学年、学部、各部の行事や取組みをできるだけ早めに更新していく。ホームページ（ブログ）の内容について、見えにくい児童生徒の活動がわかるように学年、学部、各部の行事や取組などバランスよく更新していく。

(2) 家庭・福祉・学校の連携の推進

三者連携のより一層の推進を目指し、家庭や福祉との丁寧な情報共有を心がける。学校と福祉が互いの役割のシステムを理解し合えるような職員研修の実施を研修する。

川西カリンの丘特別支援学校へ転学した児童生徒の情報提供を密に行うことで、転学先での教育活動を円滑にさせる。

(3) 学習指導要領改訂に合わせた教育課程の継続した検証

各学部の目標と教育課程に沿って、各教科と合わせた授業の内容が見通しをもって行われているか。

児童生徒の現状に合っているかを教務部、研修部、自立活動部が連携しながら検討、改善していく。